



市章

(昭和38年11月3日制定)

日野市の市章は、日野の日の字を丸くして、炎のごとく燃えさかり発展していく様を象徴しています。



市の木 かし

(昭和48年11月3日制定)

生態的に最も古い木で常に青々とした葉をつけています。古くから農家の高生け垣や屋敷林として役立てられてきました。日野の自然植生の代表種であり、成長は遅いが環境を支える木として、着実に発展する日野にふさわしい木です。



市の花 きく

(昭和48年11月3日制定)

日野に縁の深いカワラノギクの可憐さが人の心を引きつけるなどの理由から市の花に選ばれました。近年市内でも、“ポットマム”をはじめ、園芸品種が盛んに栽培されています。



市の鳥 カワセミ

(昭和58年9月12日制定)

くちばしが長く、体に比べ頭が大きく尾が短いことが特徴。「鳥の宝石」といわれるほど美しい姿をしています。清流を好む鳥で、緑と清流のまちを目指す日野を象徴しています。

日野市歌

(昭和58年1月1日制定)

作詞・作曲 日野市中学校教育研究会 音楽部会

1

みどりの街を わが日野と
ほこれる胸の 豊かさよ
恵みの幸を 踏みしめて
あしたに生きる 日野のわれら

2

平和を思う ひとびとの
確かな声は 満ち満ちて
心にかよう めくもりを
手と手でつなぐ 日野のわれら

3

脈打つ多摩の 水音に
想い出たどる なつかしさ
流れが清く あるように
願いは同じ 日野のわれら

日野市勢要覧

平成30年(2018) 3月 発行

編集・発行

日野市企画部市長公室広報担当

〒191-8686 日野市神明1-12-1

TEL : 042-585-1111 (代)

FAX : 042-581-2516



日野市勢要覧

HINO CITY GUIDE

みんなの知恵と力で日野の未来を拓こう



日野市勢要覧 目次

03	私たちのまち 日野	11	2020プラン ともに創ろう 心つながる夢のまち 日野 ～水とみどりを受け継ごう
04	新選組のふるさと日野		
06	日野市のみどころ 多摩動物公園 / 高幡不動尊 / 百草園	14	ひのごよみ
07	東京でありながら なんとなくホッとするまち	15	時を訪ねて
		18	日野市の憲章・宣言



日野市長
大坪 冬彦
Fuyuhiko Otsubo, mayor of Hino City

日野市は、東京都のほぼ中央部に位置しており、市域は27.55km²、都内26市中6番目の広さで、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつ人口18万人超のまちです。

昭和初期から大企業を誘致し、工業都市となっている一方、かつて「多摩の米蔵」といわれたように農業が盛んなまちで、現在も米や野菜などの出荷があり、小・中学校の給食には地元の野菜が多く使われています。他にもナシ、ブドウ、ブルーベリー、リンゴなどの果物栽培も行われ、ブルーベリー、リンゴは摘み取りもできます。

市内には、関東三大不動の一つである高幡不動尊があり、年末年始や節分の豆まき、あじさい、紅葉の季節などには多くの参拝客が訪れます。そのほか市の南に位置する多摩動物公園などの観光施設は家族連れで賑わっています。

また、日野は新選組隊士の土方歳三や井上源三郎が生まれ育った「新選組のふるさと」であり、子孫が開館する資料館や名主の佐藤彦五郎の屋敷（日野宿本陣）が残されています。毎年5月には「ひの新選組まつり」が行われ、全国から新選組ファンが集まります。

現在、市では少子高齢化という背景の中で、福祉・医療・教育・都市基盤整備・産業振興を次の世代に引き継げるように、持続可能なまちづくりを進めているところです。引き続き日野に伝わる固有の文化を生かし、「みんなの知恵と力で日野の未来を拓こう」をスローガンに日野市の良さや地域の個性を伸ばすまちづくりを目指していきます。

私たちのまち日野
Our Hometown Hino



Hino City, with a population of more than 180,000, is blessed with the clear streams of the Tama River and the Asa River, a highlands containing rich springs, and green, rolling hills. Hino is comfortably located almost at the center of Tokyo Prefecture. The city measures 27.55km² in area and prides itself on being the 6th largest land of the 26 metoropolitan cities. Hino has welcomed large enterprises since the early Showa era, and although the city has become a center of manufacturing, Hino was once known as the "Rice Granary of Tama" because of its rich agricultural production. Rice and vegetables are still commercially grown in the area, and local vegetables make up part of the school lunches in the local elementary and junior high schools. Pears, grapes, blueberries, apples, and other fruits are widely cultivated and there are orchards where the public can enjoy picking blueberries and apples. Hino is known for Takahata Fudo-son, one of the three major Fudo temples in Kanto, attracting many visitors at the beginning and end of the year, on Setsubun (the day of the "Bean-throwing Ceremony"), and during those seasons marked by the blooming of hydrangeas and the changing leaves of fall. The nearby Tama Zoological Park and other tourist attractions are always bustling with families. Hino is also historically famous as "the Hometown of the Shinsengumi (the Police Force of the Edo Government)" and two of the leaders of the Shinsengumi, Toshizo Hijikata and Genzaburo Inoue, grew up in the area. Hino also contained the residence (Hino-shukuHonjin) of the village head-chief, Hikogoro Sato, which is still standing. Their descendents operate museums teaching the public. The "Hino Shinsengumi Festival" is held every May and many Shinsengumi fans gather from across the whole country. Today, in an aging society with declining birthrate, we aim to make a sustainable city plan to be able to hand over welfare, medical care, education, infrastructure, and industry development to our next generation. Keeping our unique culture in Hino and under the slogan "Create the future of Hino with citizens' wisdom and ability," we will aim to develop our city and the local individuality.

新選組の ふるさと日野

江戸時代、甲州街道の宿場だった日野。

幕末、その名主・佐藤彦五郎が開いた剣術道場に集っていた、近藤勇、土方歳三、沖田総司、井上源三郎。

彼らは後に新選組と呼ばれることになります。

新選組副長・土方歳三、六番隊隊長・井上源三郎、新選組を経済面で支えた佐藤彦五郎が日野市の出身で、局長の近藤勇をはじめとする新選組の主要メンバーの多くも日野と深い関わりがあります。

このため、日野市には新選組に関する資料が多く残っています。

武士社会の最後を生きたラストサムライ「新選組」にとって、日野市は大切なふるさとなのです。

市内に数多くある新選組の関連施設



日野宿本陣

日野本町2-15-9 ☎042-586-8808

都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物です。佐藤彦五郎が建てた建物で、文久3年（1863）に上棟しました。

【休 館 日】 月曜日、年末年始
【開館時間】 9:30～17:00（入館は16:30まで）
【入 館 料】 大人200円、小人50円



土方歳三資料館

石田2-1-3 ☎042-581-1493

展示物には、歳三が使った鉢金（額を守る鉄板）、手紙、歳三の愛刀「銘和泉守兼定（いずみのかみかねさだ）」などがあります。

【開 館 日】 第1・第3日曜日（平日は応相談。詳細は☎参照）
【開館時間】 12:00～16:00
【入 館 料】 大人500円、小中学生300円



新選組のふるさと歴史館

神明4-16-1 ☎042-583-5100

新選組と新選組が活躍した幕末に焦点を当てた歴史館です。

【休 館 日】 月曜日、年末年始
【開館時間】 9:30～17:00（入館は16:30まで）
【入 館 料】 大人200円、小人50円



井上源三郎資料館

日野本町4-11-12 ☎042-581-3957

井上源三郎の生家にある土蔵を改装した資料館です。展示物には、天然理心流剣術免許などがあります。

【開 館 日】 第1・第3日曜日（平日は応相談）
【開館時間】 12:00～16:00
【入 館 料】 大人500円、小中学生300円



佐藤彦五郎新選組資料館

日野本町2-15-5 ☎042-581-0370

日野宿名主佐藤彦五郎の資料を公開している資料館です。近藤勇、土方歳三、沖田総司を始め、隊士たちとの絆の深さを物語る品々を展示しています。

【開 館 日】 第1・第3日曜日（平日は応相談）
【開館時間】 11:00～16:00
【入 館 料】 大人500円、小中学生300円



八坂神社

日野本町3-14-12

本殿は寛政12年（1800）に建造されたもので、精巧な彫刻が組み込まれた神社建築として市指定文化財になっています。佐藤道場の天然理心流剣士たちが、安政5年（1858）に、日野宿鎮守である八坂神社へ剣術の上達を願って奉納した額があります。



石田寺

石田1-1-10

土方歳三の墓所があります。5月11日は歳三の命日。5月の第2日曜日には「歳三忌」が行われます。現在でも歳三をしのぶ人々が訪れ、花が絶えることがありません。



大昌寺

日野本町2-12-13

慶長7年（1602）創建。新選組最大の支援者であり、明治11年（1878）に初代南多摩郡長になった佐藤彦五郎と妻ノブ（歳三の実姉）の墓所があります。また日野宿の時の鐘などがあります。



宝泉寺

日野本町3-6-9

元徳年間（1329～32）の開創。新選組六番隊隊長で、鳥羽伏見の戦いで戦死した井上源三郎の墓と顕彰碑があります。そのほか、持ち上げ観音、金丸四郎兵衛の墓などもあります。

日野市の見どころ

日野を代表する観光スポット3カ所をご紹介します。

多摩動物公園 程久保7-1-1 ☎042-591-1611 【休園日】毎週水曜日、年末年始

国内でも数少ない無柵放養式の動物公園で、広い敷地を散策しながらゆったりと動物を見ることができます。園内は動物の行動をより楽しめるように工夫されており、オランウータンのスカイウォークも人気です。



Tama Zoological Park (7-1-1 Hodokubo)
Tama Zoological Park was designed to give zoo-goers amazing views of the animals, and is one of the few zoos in Japan to make use of fenceless displays. The large park is great for a day's stroll by the zoo's wide variety of exhibits, such as the ever popular Orangutan Skywalk.



高幡不動尊 高幡733 ☎042-591-0032

真言宗智山派別格本山、高幡山明王院金剛寺は、古来関東三大不動の一つとして親しまれてきました。高幡不動尊は土方歳三の菩提寺であり、大日堂では、毎年5月の命日に法要が行われています。新選組をたたえた殉節両雄之碑・土方歳三の像が境内にあります。

Takahata Fudo-son (733 Takahata)

Takahata Fudo-son is a temple belonging to the Chisan subject of Shingon Buddhism, and is well-known as one of the three great Fudo temples in Japan's Kanto region. It also happens to be the temple famous historical figure Hijikata Toshizo attended. Takahata Fudo-son holds a memorial service for Toshizo each May, and has a statue of him along with a stone monument in remembrance of the Shinsengumi.



百草園 百草560 ☎042-591-3478 【休園日】毎週水曜日、年末年始

江戸時代に松連寺の庭園として造られ、文化・文政の頃には多くの文人墨客に愛されました。早春はミツバツツジ、初夏はアジサイ、秋は紅葉、冬はロウバイなど、四季の花と木を楽しめます。特に梅の時期の眺めは圧巻。2～3月には梅まつりが開催され、都内有数の梅の名所として親しまれています。

Mogusaen (560 Mogusa)

Originally built as a temple garden, the scenic Mogusaen grounds became a popular destination for writers and artists during the early 1800s. With how beautifully the gardens portray the passing seasons, it's not hard to see why. As the months go by, you can enjoy rhododendrons, hydrangeas, momiji, and Japanese allspice among other seasonal flora. In particular, Mogusaen's Plum Festival in February and March is a local favorite.

東京でありながら、なんとなくホッとするまち

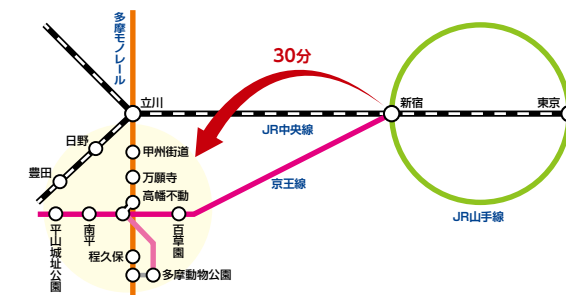
住

美しい自然、便利な交通、真心あふれる子育て支援、旬の新鮮な野菜やフルーツ、ビジネスチャレンジできる環境など、日野市には安心できる暮らしが整っています。新選組のふるさとで、誠実で愛いっぱいを送りませんか。

都心から30分「東京の中心」 市民一人当たりの駅数はトップクラス！

日野市は新宿から電車で約30分、東京都の中央に位置し、通称「東京のへそ」とも言われたりすることがあります。人口約18万人、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつまちです。

市内にはJR中央線や京王線、多摩モノレールで合計12の駅があり、市民一人当たりの駅数は多摩地域でトップクラス。通勤や通学、市内外へのアクセスが大変便利です。



ショッピングも楽々 大型商業拠点にも近くて便利

日野市には、JR中央線日野駅、豊田駅、京王線・多摩モノレール高幡不動駅の3駅周辺に商業拠点が 있습니다。

市内に均等に存在しているため、日常の買い物、飲食店の利用もラクラク。また、立川、八王子などの大型商業拠点にも近接しており、大変便利な環境です。

住んでよし、訪れてよし リラックスして暮らせるまち

かつて「多摩の米蔵」と呼ばれ、田園が広がっていた日野市には、今でも豊かな自然が残っています。都心に近く、便利な住宅地の身近に、多摩川と浅川、市内を縦横に巡る用水などの清流、丘陵地、里山などの緑が共存しています。

人と自然の営みのバランスが取れているので、生活ストレスも少なく、訪れる人にも住む人にも安らぎを与えてくれます。



後世に残したい 心洗われる 水辺の風景50選

かつては、多摩の米蔵といわれるほど米づくりが盛んであった日野市。市内には多摩川・浅川から水を引く用水路が網の目のように流れ、日野市の農業を現在も支えています。

この誇るべき日野の財産である美しい水辺の保全と、それを活かしたまちづくりを後世に受け継ぐべく、未来の日野市の姿を「水都（すいと）日野」と定め、多くの市民から推薦された「お気に入りの水辺」の候補の中から、後世に残すべき50選を決定しました。



育

真心あふれる子育て支援

日野市に住む子供たちには、毎日ごきげんに、
すくすく健やかにすごしてほしいから、
生まれる前から18歳まで切れ目なく、
真心あふれる子育てサポートが充実しています。
皆で手を取り合って一緒に成長する、
それが日野市流の子育てです。

悩めるパパ・ママ・キッズを笑顔にする 日野市の子育て駆け込み寺

子ども家庭支援センターでは妊産婦の方や0歳から18歳までの子供に関する相談、子育ての悩みや不安、家庭の問題の相談など、電話や面談でお受けしています。
総合的な相談窓口としてご利用・ご相談ください。

子ども家庭支援センター
電話：042-599-6670
・月曜～土曜日
・午前9時～午後5時
日曜・祝日・年末年始はお休み

日野市の学校給食は地産地消の先駆け 小中9年間で教える「本物の味」

日野市の学校給食は、全校自校調理方式を採用し、各校に在籍する栄養士のもと、だしやルーにもこだわるひと手間かけた手作り給食を基本としています。旬の日産農産物の積極的な活用と併せて、学校給食を通じて小学校・中学校9年間で子供たちに「本物の味」を伝えています。



子供たちの放課後も安心 3つの事業で支える充実した居場所

日野市では、子供たちの放課後の居場所として、放課後子ども教室ひのっち、児童館、学童クラブがあります。保護者の方のお仕事の状況や子供の成長と発達の段階に応じて、安心して選んでいただける放課後の居場所をご利用ください。

支援が必要な子供や保護者も安心 福祉と教育が一体となった 総合支援施設

エール（日野市発達・教育支援センター）は、0歳から18歳までの発達面、行動面、学校生活面において支援を必要とする子供、子供の育ちについて不安がある保護者の総合的な相談・支援を行います。福祉と教育が一体となって継続的に支援する仕組みは、全国的にも珍しく、先進的な取り組みとして注目されています。



味

新鮮な
ローカル
フードが
パワーの
源

日野市は全国初の「農業基本条例」を制定した都市農業が盛んなまち。
もぎたてのナシやブドウ、ブルーベリー、トマト、
冬の訪れを告げる東光寺大根など、
愛情と栄養たっぷりの食材が四季を通じて楽しめます。

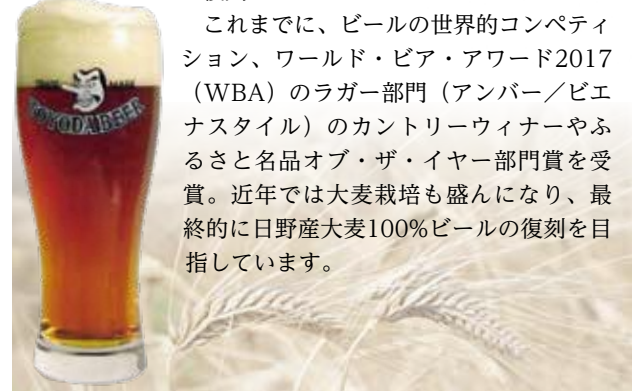
ヘルシーライフの秘訣は 日野産の新鮮食材にあり！

東京でありながら都市農業が盛んな日野市では、四季を通じてさまざまな野菜やフルーツが生産されています。旬の時期に収穫された農産物はおいしいだけでなく、栄養価も非常に高く、市民の健康に大きく貢献しています。
日野市内で収穫された野菜や果物は、30年以上前から学校給食にも使用されており、地産地消を実践しています。直売所・即売会8ヵ所、その他農業者の庭先販売も多数あり、市外からも買いに来るほど。もちろん新鮮な上、格安です。



新時代への挑戦は続く 多摩地域最古のビール 「TOYODA BEER」

日野市には、かつて多摩地域で最古のビール工場があり、明治19年からビール製造が行われていました。平成25年に当時のラベル、ビール瓶の破片などが見つかったことをきっかけにTOYODA BEERが復刻されました。



これまでに、ビールの世界的コンペティション、ワールド・ビア・アワード2017（WBA）のラガー部門（アンバー／ピエナスタイル）のカントリーウィナーやふるさと名品オブ・ザ・イヤー部門賞を受賞。近年では大麦栽培も盛んになり、最終的に日野産大麦100%ビールの復刻を目指しています。

日野グルメなら 「ひのうまいもん大図鑑」

食文化が豊かな日野市には飲食店も多く、バラエティーに富んだ料理が楽しめます。ひのうまいもん大図鑑は、そんな日野市内のグルメ情報が満載。市民グルメハンターの方が取材した日野市内飲食店を冊子や動画で紹介しています。冊子版は、日野市役所を始め、市内各所で無料配布しておりますので、ご利用ください。



次世代の
イノベーションを
創造するまち

創

市民の皆さまや企業、大学、起業を目指す方々と日野市がそれぞれ協力しあってワクワクする未来のまちづくりを共に創り上げていく。社会課題をチャンスに変える、そんな気概のある志士たちが集まるまち。それが日野市です。



日野市の基盤 高度な技術が支える工業都市

日野市は東京都の自治体で年間製造品出荷額などが2位、付加価値額が1位になるほど、昔から工業が盛んな都市です。

平成25年に開催された第68回国民体育大会（スポーツ祭東京2013）を契機に、日野市を訪れた選手、観客などの来訪者に対し、工業都市日野の魅力を発信することを目的に、市内に立地する企業の“技”を結集した「日野おもてなしロボット」を製作。このロボットは産業まつりなどで現在も皆さまをおもてなししています。

また、ものづくりの未来を担う子供たちの育成にも力を入れ、3Dプリンター活用教室などを行う「ものづくりの楽しさ応援プロジェクト」は子供たちに大人気のイベントです。

フロンティアランナーを養成 新たな事業を創出

創業者向けセミナー、創業相談、創業スクール、チャレンジショップ、コワーキングスペースなどさまざまな創業に関する支援を行っています。

修了者からは、地域の活性化や課題解決を目指す新たな事業者が生まれています。

日野市は起業する方を応援しています。

社会課題をチャンスに変える 新たなビジネスの創出

少子高齢化や人口減少、急激に進む情報化やインフラの老朽化など、社会の急激な変化に伴い、地域がかかえる課題は増え続け複雑化しています。

日野市では、こういった社会問題を、市民の皆さまや企業、大学などと共有し、対話を通して解決を図る中から、新たなビジネスを創り出すことに力を入れています。



イノベティブな未来が詰まった 企業の魅力PRレポート

日野市内の企業と大学の優れた技術や研究を紹介する「企業の魅力PRレポート」。特徴的な技術や製品、研究シーズを「みえる化」し、新たなイノベーションを生み出すための連携の輪を広げることが目的として作成しています。平成29年度版では、市内61の企業と、33の研究室を掲載しています。

姉妹都市・岩手県紫波町

童謡「たきび」の作詩者・異聖歌（たつみせいか）が縁を取り持った姉妹都市提携

童謡「たきび」の作詩者である異聖歌は岩手県紫波町で生まれ、昭和48年に68歳で亡くなるまでの晩年（昭和23年から48年）を日野市旭が丘で過ごしました。紫波町の住民と旭が丘地域の住民とは、「異聖歌」を通じて長年にわたり、住民相互の交流が継続しています。

平成28年12月には双方の議会において姉妹都市提携に関する議案が可決され、平成29年1月30日に姉妹都市盟約の締結を行いました。

日野市の交流都市

姉妹都市・レッドランズ市

レッドランズ市のお隣のサンパナディーノ市と姉妹都市提携を結んでいた立川市が取り持つ縁で、オレンジの産地であるレッドランズ市と、ナシの産地である日野市と環境が似ていることから姉妹都市提携を勧められ、昭和37年11月7日レッドランズ市議会が先に日野市と姉妹都市提携を結ぶことを可決、昭和38年7月15日、日野市議会でも姉妹都市提携を可決しました。平成25年には、姉妹都市交流50周年を迎え、高校生の相互派遣事業や市民による草の根交流が続いています。



2020プラン

ともに創ろう心つながる夢のまち
～水とみどりを受け継ごう～

持続可能なまちづくりを進め、次の世代へ水とみどりのまちを残していくことができるよう、市民と市の協働によるまちづくりの指針として、第5次日野市基本構想・基本計画を策定しています。

将来都市像を「ともに創ろう 心つながる 夢のまち日野～水とみどりを受け継ごう～」とし、その実現に向けて、以下の7つの柱を設定し、市民と市の協働のもとで総合的かつ計画的にまちづくりを推進しています。

1 参画と協働のまち

- 市政やまちづくりに関する情報を分かりやすく提供するなど、自立した市民との協働により、まちづくりについて考えることのできる環境を整えます。
- 地域のだれもがお互いを尊重し、支え合う地域社会を実現できるよう、コミュニティ意識の醸成、男女平等などの理念の普及に取り組みます。また、コミュニティの核となる自治会、ボランティア団体やNPO（市民活動団体）などを積極的に育成・支援します。
- 市民から信頼される市となるよう、市民の視点で仕事に取り組み、主体的に行動できる職員を育成します。
- 経営的視点に立った効率的で質の高い行政運営を展開します。また、不断の行財政改革に取り組むとともに、既存の公共施設の老朽化対策、維持管理、更新および転用、統廃合などを総合的に進め、持続可能な財政運営に努めます。

2 子供が輝くまち

- 安心して子供を生み育てられるよう、情報提供、相談体制の充実や、多様な保育サービス、子育て支援サービスを提供します。また、地域の人材や組織を活用し、世代を越えて地域ぐるみで子育てを支援する体制を構築します。
- 日野市子ども条例にのっとり、全ての子供が自分らしく、健全に育つことを地域ぐるみで支えられる子育て環境を整えます。また、児童虐待やいじめなどで苦しんでいる子供を見過ごさない仕組みを充実します。
- 子供たちが、楽しく意欲的に安全に学べるよう、教育内容や施設の充実を図るとともに、学校・家庭・地域の連携を深め、子供たちが家族や郷土を愛し、自ら学び、心豊かに成長できる教育環境を整えます。

3 健やかでともに支え合うまち

- 市民一人ひとりがライフステージに応じた心と体の健康づくりに取り組み、意識づくりや検診などの機会を提供します。
- 市立病院を核として適切な医療が受けられる体制を整えます。
- だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせる社会の実現に向け、施設整備などのハード面、そして、相談体制の充実、介護予防および介護、社会参加支援、就業支援などのソフト面からの支援を行います。また、地域福祉活動の拠点づくり、地域福祉活動の担い手育成などを通じて、市民がお互いに支え合う福祉活動を促進します。
- 真に支えが必要な市民に対して、さまざまなセーフティネットによる最低限の支援を行います。



4 日野人（ひのびと）・日野文化を育てるまち

- さまざまな世代の人が生涯学習に取り組めるよう、図書館や公民館などの生涯学習関連施設、他の集会施設などを利用・活用し、地域人材の発掘・育成・活用を図ることで魅力的な学習が行える場や機会を提供し、それぞれの学習活動を支援します。また、学びを通して、豊かな人間関係、地域づくり、まちづくりにつなげる仕組みづくりを進めます。
- だれもがスポーツを通じて健やかな心と体をつくれるよう、スポーツ施設を充実するとともに、講習会や教室、イベントなどを開催し、スポーツに取り組む市民の裾野を広げます。
- 文化、芸術、歴史などに触れ合う場や機会を提供し、地域の誇りやふるさとへの愛着を育みます。また、国内外の垣根を越えて交流の輪を育み、日本人と外国人がお互いの考えや文化・習慣を尊敬し合える社会を築きます。



5 自然と調和した環境に優しいまち

- 美しいふるさとを次代へ継承するため、低炭素型社会の構築を推進するとともに、市民一人ひとりが環境に優しいライフスタイルを心掛けられるよう、情報提供や意識啓発などに取り組みます。また、日野市の財産である水と緑の保全・再生・活用に努めるとともに、多様な生物の生息・生育環境を守ります。
- 生活排水や雨水の処理を適切に行い、市民の暮らしや自然環境を守ります。
- ごみゼロ社会の実現に向けて、ごみの減量化・資源化を推進するとともに、ごみ処理施設の更新を行い、廃棄物を適正に処理し、環境に優しい暮らしを支えます。



6 安全で安心して暮らせるまち

- 防犯対策や安全対策として、防犯パトロールや講習会、相談体制を充実します。また、地域ぐるみで自主的な防犯、安全活動が積極的に行われるよう、防犯・安全に対する意識、見守りや助け合いの心を醸成するとともに、地域における防犯・交通安全活動、消費生活の安全のための活動を支援します。
- 防災対策、消防力の強化に取り組むとともに、市民自身が防災力を高められるよう、情報提供や防災に関する意識や知識を高める啓発活動を行うとともに、自主防災組織など地域主体の災害対策活動を支援します。また、いざというときの危機管理体制を確立し、安全なまちづくりに取り組みます。
- 防犯や防災、消費生活の安全について、地域で積極的な声掛けや相談ができる体制づくりに努めます。
- 高齢者や障害者など、いわゆる災害弱者への支援体制を自治会などのコミュニティとともに整備します。



7 地域の魅力を活かした活力あるまち

- 貴重な自然や歴史的・文化的な景観の保全、そして防災に配慮しながら、道路、公園、公共施設などを計画的に整備します。
- だれもが安全で快適に暮らせるよう、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、鉄道・バスなどの公共交通の利便性を高めるとともに、安全で快適な道路や交通拠点の整備を推進します。また、同居・近居も含めた三世代交流のまちづくりの推進、丘陵部における公共交通の充実など、超高齢社会に対応したまちづくりを推進します。
- 市街地基盤の整備を進め、良好な住宅環境を構築するとともに、農業、商業、工業、サービス業のバランスが取れたまちづくりを進めます。
- 自然環境や生活環境への配慮のもと、既存産業の振興に努めるとともに、新たな成長産業の創出・育成に努め、雇用機会を拡大します。また、魅力ある商業・サービス業・農業を振興し、まちの活性化を図ります。
- 日野市の工業発展を引き続き支援し、あわせて企業跡地の活用（誘致を含める）についても推進していきます。
- 新選組や自然と歴史・文化を生かした観光産業の振興に努めます。



ひの ごよみ



あじさいまつり

1月 出初式(多摩川グラウンド)
日野市成人式
初不動大祭(高幡不動尊)(28日)
日野七福神めぐり(市内七寺院)

2月 節分(高幡不動尊)(3日)
お雛さまを愛でる会(日野宿本陣)

3月 スプリングフェスタ日野(日野中央公園)
梅まつり(京王百草園)

4月 サクラの集い(多摩川土手)
郷土資料館まつり(郷土資料館)
新緑まつり(京王百草園) 4月下旬～5月上旬



ひの新選組まつり

5月 ひの新選組まつり(市内各所)
公民館まつり(中央公民館)

6月 あじさいまつり(高幡不動尊)

7月 ひのよさこい祭(多摩平)
浅川アユまつり

8月 ひのアートフェスティバル
(仲田の森蚕糸公園)

9月 日野八坂神社例大祭
豊田若宮神社例大祭

10月 日野市民スポーツレクリエーションフェスティバル
こどもまつり(日野中央公園)
すえしげ
平山季重まつり(平山城址公園周辺)
健康フェア&くらしのフェスタ
菊まつり(高幡不動尊)

11月 日野市産業まつり(日野中央公園)
もみじ灯路(高幡不動駅周辺)
万燈会(高幡不動尊)
紅葉まつり(京王百草園)
もみじまつり(高幡不動尊)

浅川アユまつり



産業まつり



菊まつり



もみじ灯路

産業まつり

時を訪ねて

古くから、多摩の要衝として栄えてきた日野。
長い歴史をたどると、さまざまな日野の姿が見えてきます。
日野のあゆみをふりかえってみましょう。

先土器時代～明治時代

西暦 年号 日野(多摩)中心のできごと

先土器時代

約1万2500年前 日野台地で狩猟をしながら移動生活をする。

縄文時代

早期～前期 日野台地などに人々が定住しはじめる。
中期 日野台地や多摩丘陵に集落が営まれるようになる。
日野の沖積地でも人々が生活するようになる。

弥生時代

末期 神明上や平山に集落ができる。

古墳時代

前期 西平山、吹上などに集落が営まれる。
後期 沖積地の開発が盛んになり、落川などに大規模な集落が営まれるようになる。
セツ塚、平山などに古墳が作られる。
台地のはけに横穴古墳が作られる。
このころ、武蔵国ができる。



▲平山古墳(古墳時代)

奈良時代

712 和銅7 武蔵国から絹を調として納め始める。
天平宝字年間 武蔵国分寺完成。
(757～764)

平安時代

833 天長10 武蔵国に「悲田処」が作られる。
861 貞観 3 武蔵国の各郡に検非違使をおく。
このころ武蔵国に牧が作られる。
1156 保元 1 保元の乱における源義朝の軍勢に西党平山氏が従軍する。
1159 平治 1 平山季重が源義朝に属し、平治の乱の合戦に従軍する。
1163 長寛 1 同年10月13日刻銘の経筒が、旧百草村新堂谷戸に埋納される。
1165 永万 1 同年9月17日刻銘の経筒が、旧百草村新堂谷戸に埋納される。

鎌倉時代

1180 治承 4 源頼朝が常陸佐竹秀義の金砂城を攻撃し、平山季重が従軍する。
1184 元暦 1 平山季重が源義経に属し、一の谷の合戦に従軍する。
1186 文治 2 源頼朝が武蔵国真慈悲寺を再興する。
1250 建長 2 「武州多西郡真慈悲寺」などの背銘のある銅造阿弥陀如来座像が鑄造される。
1271 文永 8 市内に現存する最古で最大の板碑南平に造立される。
1273 文永10 同年5月20日刻銘の銅造鰐口(金剛寺蔵、国重要文化財)が鑄造される。

南北朝時代

1335 建武 2 高幡山上の不動堂が大風で倒壊する。
1342 康永 1 高幡不動堂、山下の現在地に再建。

室町時代

1455 康正 1 足利成氏、上杉顕房と立川が原で戦う。上杉方の上杉憲顕が敗れて高幡不動にのがれ自害する。

西暦 年号 日野(多摩)中心のできごと

戦国時代

1567 永禄10 このころ日野用水ができる。
1570 元亀 1 日野宿で後北条氏による屋敷検地が行われる。
1586 天正14 北条氏照が日野惣郷に竹木伐切を禁じる。
1588 天正16 北条氏照、三沢衆を八王子城に召集。
1590 天正18 八王子城・小田原城落城。

江戸時代

1605 慶長10 大久保長安、日野を宿場と定める。
日野宿で、物資の輸送が始められる。
1684 貞享 1 日野宿助郷42か村が定まる。
日野渡船場、日野宿の経営となる。
1685 貞享 2 多摩川の川運上が定められ、御菜點の上納が行われる。
1723 享保 8 高倉原の新田開発が行われる。
1809 文化 6 大田南畝(蜀山人)が勘定奉行配下の役人として多摩川巡視中に日野宿名主佐藤彦右衛門方に立寄り「蕎麦の文」を記す。
1817 文化14 八王子や日野新田に隕石が降る。
1827 文政10 日野宿を寄場として組合村(日野宿組合)が組織される。
1844 天保15 日野宿組合の村々が太昌寺の時の鐘料を払う事が決まる。
1846 弘化 3 日野の渡しで渡船が転覆、30余人が流死。
1849 嘉永 2 日野宿の本陣・脇本陣が大火のために類焼する。
1863 文久 3 幕府が関東の農兵取立てを実施し、日野農兵隊ができる。
土方歳三ら、京都において新選組を組織する。
1866 慶応 2 武州一揆おこる。日野農兵隊が八王子農兵隊とともに築地河原で撃退する。

明治時代

1868 明治 1 甲陽鎮撫隊が勝沼の戦いで敗れる。
日野宿をはじめ、現在の日野市域の村々が、神奈川県の管轄となる。
1869 明治 2 土方歳三、函館で戦死。
1872 明治 5 日野宿組合郷学校できる(日野学校、高幡学校)。
1873 明治 6 日野小学校、下田小学校、真心(平山)小学校、種徳(平)小学校、潤徳小学校が開校される。
1874 明治 7 豊田小学校開設。
日野郵便局開業。
1876 明治 9 昭景小学校開設。
1878 明治11 郡区町村編制法の施行により、神奈川県管轄の多摩郡は南、北、西の三多摩に分割される(東京府管轄の多摩郡は東多摩郡となる)。
南多摩郡役所、八王子に開設。初代郡長に日野宿の佐藤俊正が任命される。
1882 明治15 森久保作蔵、五十子敬斎らが自由党に入党。
自由民権運動が盛んになる。
1884 明治17 困民党が蜂起し、日野にも影響が及ぶ。
1887 明治20 百草園が開園する。
1888 明治21 日野煉瓦工場が発足する(明治23年8月まで)。
1889 明治22 甲武鉄道、新宿ー八王子間開通。
市町村制施行により、日野市域に日野宿・桑田村・七生村の一宿二か村が誕生。
1890 明治23 日野駅開設。
1893 明治26 三多摩が東京府へ移管される。
日野宿が日野町と改称される。
日野町で大火がおこる。
1901 明治34 豊田駅が開設される。
日野町と桑田村が合併して日野町となる。
1906 明治39 甲武鉄道、国鉄に買収され、中央線となる。
1908 明治41 下田小学校と豊田小学校が、日野小学校に統合され、分教場となる。
1909 明治42 昭景小学校が、潤徳小学校に統合され、落川分校となる。
1910 明治43 南多摩郡豊田耕地整理組合発足、豊田の耕地整理事業が始まる。
1911 明治44 林丈太郎が、平山陸稲を発見する。

大正時代～昭和時代

西暦	年号	日野 (多摩) 中心のできごと
----	----	-----------------

大正時代

1913	大正 2	豊田・川辺堀之内耕地整理事業完成。 浅川に平山橋が架設。
1914	大正 3	多摩川の大洪水。四谷下（鉄橋下）の堤防決壊。氾濫を起こす。
1916	大正 5	甲州街道沿線および四谷に電灯がつく。
1918	大正 7	下田・新井・石田・宮・堀之内・豊田・河原に電灯が付く。
1921	大正10	日野郵便局で、電信電話業務開始。
1923	大正12	郡制廃止により、南・北・西多摩各郡役所が廃止となる。 関東大震災起こる。 浅川に高幡橋が完成する。
1925	大正14	玉南電気鉄道㈱、府中－東八王子間営業開始。 百草・高幡・平山駅開業。

昭和時代

1926	昭和 1 (大正15)	玉南電気鉄道㈱、南平駅開業。 日野橋開通。 立川－高幡不動間、バス運転開始。 玉南電気鉄道㈱、京王電気軌道㈱と合併、新宿－東八王子駅間直通となる。
1928	昭和 3	日野郵便局で電話交換業務開始。
1930	昭和 5	多摩川に発電所建設、いかだ流し不可能となる。 中央線、立川－浅川間電化運転開始。
1932	昭和 7	七生村が経済更生指定村となる。
1936	昭和11	平山橋開通。
1937	昭和12	小西六日野分工場が操業開始。 中央線複線化、日野新駅開設。
1939	昭和14	七生村に東京府拓務訓練所が開設。
1942	昭和17	日野自動車工業できる。
1943	昭和18	東京都制施行。 富士電機製造㈱豊田工場操業開始。
1945	昭和20	4月3日、空襲により上田・宮・下河原で爆死者あり。 8月3日、八王子大空襲。
1946	昭和21	豊田分校が独立して、豊田小学校（二小）となる。 高幡山金剛寺不動堂仁王門が国の重要文化財に指定。
1947	昭和22	日野中学校（一中）・七生中学校が開校。 カスリン台風により多摩川大出水。
1948	昭和23	日野町警察署・日野町消防署発足。
1950	昭和25	日野台分校が独立し、日野台小学校（三小）となる。 多摩計器㈱（翌年オリエント時計㈱と改称）操業開始。
1954	昭和29	日野第二中学校開校。 日野町役場庁舎（市役所旧庁舎）完成。
1955	昭和30	下田分校が独立して、日野第四小学校となる。 七生村役場焼失。七生村診療所を臨時役場とする。
1958	昭和33	日野町と七生村が合併して日野町となる。 多摩平団地への入居が始まる。 多摩動物公園開園。
1959	昭和34	日野第五小学校開校。 衛生処理場完成。
1960	昭和35	日野町上水道給水開始。 平山台工業団地造成開始。
1961	昭和36	日野町立日野国民健康保険病院（現日野市立病院）設立。
1963	昭和38	一番橋開通。 日野町、市制施行（全国で559番目）。 アメリカ、レッドランズ市と姉妹都市提携。 市章制定。
1964	昭和39	京王線多摩動物公園駅開業。 明星大学開校。
1965	昭和40	市立図書館開館。 ハヶ岳「大成荘」開設。 日野第六小学校開校。 字名が廃止になる。 市民プール開設。



▲日野・豊田新駅開通式（昭12）

西暦	年号	日野 (多摩) 中心のできごと
----	----	-----------------

1966	昭和41	都立日野高校開校。 中央公民館・福祉センター完成。
1967	昭和42	中央自動車道八王子－調布間開通。
1969	昭和44	日野保健所開設。 ひの社会教育センター開館。 日野第八小学校開校。
1970	昭和45	百草台小学校・日野第三中学校開校。
1971	昭和46	滝合小学校開校。 ヒノクジラの化石発見。 第一次基本構想策定。
1972	昭和47	高幡台小学校開校。 日野消防署が現在地に移転。
1973	昭和48	日野第七小学校・日野第四中学校開校。 市立中央図書館開館。
1973	昭和48	市の木（かし）・市の花（きく）制定。
1974	昭和49	南平小学校開校。 市営水道事業が東京都に統合される。 日野市土地開発公社設立。
1976	昭和51	清流条例施行。
1977	昭和52	旭が丘小学校・程久保小学校・三沢中学校開校。 高幡橋開通。 市役所新庁舎完成。
1978	昭和53	平山台小学校開校。
1979	昭和54	東光寺小学校開校。 市立南平体育館開館。 (社)日野市高齢者事業団(現(社)日野市シルバー人材センター)発足。 七生公会堂開館。 七生支所、七生公会堂1階に移転。
1980	昭和55	三沢台小学校・大坂上中学校開校。 都立日野台高校開校。 駒形の渡し舟開設（夏期）。 高幡図書館・日野図書館開館。 日野中央公園開園。 金剛寺五重塔が完成。
1981	昭和56	平山中学校開校。 日野駅ホーム下にご道橋開通。
1982	昭和57	日野市老人憲章制定。 市民ギャラリー開館。 高幡不動尊が新東京百景第1位。 第二次基本構想策定。 核兵器廃絶・平和都市宣言を採択。 市立婦人センター開設。
1983	昭和58	日野市歌制定。 市の鳥（カワセミ）制定。 日野市民憲章制定。
1984	昭和59	日野駅－市役所－豊田駅間のバス路線開通。 仲田小学校開校。 コアラ多摩動物公園に来る。
1985	昭和60	市民会館開館。 都立南平高校開校。 住民登録事務電算化。 つばさ学園開園。
1986	昭和61	勤労・青年会館開館。 都立科学技術大学開校。
1987	昭和62	市民の森スポーツ公園開園。 クリーンセンター新焼却施設完成。 日野市環境緑化協会発足。 はくちょう学園開園。
1988	昭和63	金剛寺不動明王像など東京都指定文化財となる。 市立生活・保健センター開設。 基本計画策定。



▲市役所新庁舎完成（昭52）

平成時代～

西暦	年号	日野 (多摩) 中心のできごと
----	----	-----------------

平成時代

1989	平成元 (昭和64)	立日橋開通。 南平丘陵公園開園。 東部会館開館。 ふるさと博物館開館。
1990	平成 2	多摩川の河床からゾウのキバ化石が発見される。 百草図書館開館。
1991	平成 3	立日橋全面開通。 駒形の渡しでスギ製の「日野かわせみ号」進水式。 市立乗鞍高原「日野山荘」開設。 万願寺歩道橋（愛称ふれあい橋）開通。
1992	平成 4	浅川スポーツ広場完成。
1993	平成 5	市立ハヶ岳高原「大成荘」再館。 日野市防災情報センター開設。 電話で聞ける市政情報「テレホンガイドひの」開設。
1994	平成 6	日野市市民参加の推進に関する要綱を制定施行。 日野市・多摩市・稲城市を管轄する日野税務署開設。
1995	平成 7	国土庁より日野市が「水の郷」に選ばれる。 日野市環境基本条例制定。 第三次基本構想策定。
1996	平成 8	ひの男女平等社会推進プラン策定。 日野市普通河川等管理条例施行。
1997	平成 9	鳥と緑の国際センター開設。 日野市行政手続条例施行。
1998	平成10	日野市個人情報保護条例施行。 日野市立福祉支援センター開設。 日野市農業基本条例制定。 男女共同参画都市宣言を採択。 市制35周年記念事業「新選組 in 日野」開催。 府中四谷橋開通。
1999	平成11	日野市ホームページ開設。 市民課豊田駅連絡所開設。 ひの市民大学開校。
2000	平成12	多摩都市モノレール全線開通。 リサイクル推進センター開設。 選べる学校制度制定。 ゴミ収集用ボックス廃止、戸別収集制に変更。 ISO14001の認証を取得。
2001	平成13	第4次基本構想策定。 東部子ども家庭支援センター開設。 日野市ファミリーサポートセンター開設。 日野市男女平等基本条例を制定。
2002	平成14	夢が丘小学校（高幡台小学校、程久保小学校統合）開校。 新日野市立病院開設。 一番橋新設開通。
2003	平成15	日野市議会議員定数条例施行（30人→26人）。 石田大橋開通。
2004	平成16	「新選組フェスタin日野」を開催（1月11日～10月31日）。 多摩平の森ふれあい館開設。 男女平等推進センター開設。
2005	平成17	日野市郷土資料館開設。 環境情報センター「かわせみ」開設。 しごとサポートひの開設。 ドッグラン開設。
2006	平成18	平山小学校（平山小学校・平山台小学校統合）開校。 日野市清流保全－湧水・地下水の回復と河川・用水の保全－に関する条例施行。 日野市まちづくり条例施行。



▲多摩都市モノレール全線開通（平12）

西暦	年号	日野 (多摩) 中心のできごと
----	----	-----------------

2007	平成19	国道20号日野バイパス全線開通。 七生支所が京王高幡ショッピングセンター内に移転。 放課後子どもプラン「ひのっち」スタート。 第3次日野市行財政改革大綱実施計画の策定。
2008	平成20	日野町・七生村合併50周年。 子ども家庭支援センター開設。 平山季重ふれあい館開設。 七生福祉センター開設。 七生緑小学校（百草台小学校・三沢台小学校統合）開校。 平山台健康・市民支援センター開設。 セーフティネットコールセンター開設。
2009	平成21	日野市ユニバーサルデザイン推進条例施行。 日野市みんなですずめる食育条例施行。 基幹型あさひがおか児童館・さかえまち児童館開設。 栄町こうゆう館開設。 ミニバス川辺堀之内線運行開始。
2010	平成22	豊田駅の発車メロディーが童謡「たきび」に。 日野都市計画道路3・4・22号線 緑橋開通。
2011	平成23	日野都市計画道路3・4・14号線（一番橋通り）京王線との立体交差完成。 東日本大震災おこる。 健康サポートルーム「輝」開設。 第5次基本構想策定。
2012	平成24	市民の森ふれあいホール開館。 日野都市計画道路3・4・14号線（一番橋通り）工事完了。 日野都市計画道路3・4・8号線（都道淵上日野線）開通。 七ツ塚ファーマーズセンター開設。
2013	平成25	市制施行50周年。 第68回国民体育大会（スポーツ祭東京2013）開催。 市制施行50周年記念事業原動機付自転車オリジナルナンバープレート交付。 小島善太郎記念館が開館。 日野都市計画道路3・4・11号線（新川崎街道）開通。 小型家電・金属類の資源物回収開始。
2014	平成26	市立病院が都の災害拠点病院に指定される。 発達・教育支援センター「エール」開設。 イオン(株)と相互協力・連携に関する協定を締結。 GEヘルスケア・ジャパンと「少子高齢社会における地域モデル作りのためのパートナーシップ協定」を締結。
2015	平成27	明星大学と相互協力・連携に関する包括協定を締結。 コニカミノルタ(株)・日野市・市立病院が災害時協力協定を締結。 第二小学校が豊田小学校に校名変更。 多摩平の森産業連携センター“PlanT（プラント）”開設。
2016	平成28	個人番号カードを利用したコンビニエンスストアでの各種証明書発行サービスを開始。 日野市長が実践女子学園理事長と共同で「イクボス宣言」を行う。
2017	平成29	日野市高齢者憲章制定。 第4次行革の実施状況公表。 巽聖歌のふるさと岩手県紫波町と姉妹都市締結。 カワセミハウスがオープン。 第5次日野市行財政改革大綱公表。 「日野市障害者差別解消基本方針」「日野市子どもの貧困対策に関する基本方針」策定。 第3次日野市ごみゼロプラン完成。



▲国道20号日野バイパス全線開通（平19）



日野市民憲章 昭和58年1月1日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然環境に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考え、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ とともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう

Hino Civic Charter

Hino residents proclaim the Hino Civic Charter to ensure that the residents are happy living here. It is also drawn to think of Hino, a place blessed with the natural galore of plains and hillocks that stretch from Tama and Asa rivers, as the hometown of our daily living.

- Let's create a hearty and comfortable city that is energetic and a place to enjoy working.
- Let's create a healthy and happy city by working in harmony.
- Let's create a beautiful city of greenery, clean water and bright sun, by protecting nature.
- Let's create a friendly city that is considerate to people and kind to children and the weak.
- Let's create an affluent and peaceful city that cultivates the pride of local culture.

日野市高齢者憲章 平成29年1月1日制定

わたくしたち日野市民は、日野市民憲章の趣旨を大切にしまちづくりを進めて参ります。高齢化が進む中、意欲と経験のある高齢者は、社会の大切な担い手として活躍し、支えの必要な高齢者は、周囲の人々や社会がしっかり支え、全ての高齢者がいつまでも健康で明るく幸せにくらしていけることを願って、この高齢者憲章を定めます。

- 1 全ての市民は、長く社会につとめた先輩として、高齢者を敬愛します。
- 2 高齢者は、家庭及び地域や社会の一員として、共に支え合います。
- 3 高齢者は、家庭及び地域や社会により、健康と明るいくらしが守られます。
- 4 高齢者は、知識や能力を活かして社会で活躍し、知恵や経験を次の世代に伝えます。
- 5 高齢者には、健康維持と生きがいをつくるため、社会参加の道が開かれます。

Hino Senior Citizen's Charter

As citizens of Hino, we continuously strive to improve our city in accordance to the Hino Civic Charter. At the same time, we are also members of Japan's aging society. In order to ensure that all senior citizens can lead long, happy, healthy lives, we hereby pledge to uphold the Hino Senior Citizen's Charter.

By adhering to the objectives listed below, we hope to create an environment in which senior citizens can apply their ambition and experience to the betterment of society while receiving the support they need from society in exchange.

- All citizens will treat senior citizens cordially and with due respect for their many years of contribution to our society.
- As family members, neighbors, and fellow citizens, we will work together to support our senior population.
- As family members, neighbors, and fellow citizens, we will guarantee seniors healthy, fulfilling lives.
- In order to effectively utilize seniors' knowledge and skills, seniors will share their experiences with younger generations.
- To promote a healthy and meaningful lifestyle, seniors will be provided opportunities to participate in society.



日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和57年10月8日議決

巨大な量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器削減交渉などをもってしても、もはやその拡大を止められない事態となっている。

ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文明の滅亡であることはいうまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。

Hino City Proclaims Abolishment of Nuclear Arms and Promises to be a Peaceful City.

There are so many nuclear arms existing in our world that it would not be enough to stop the growth in number with only the Strategic Arms Reduction Talks (START) negotiated between the U.S.A. and Russia.

If nuclear arms are ever used, it will have devastating affects on all mankind and destroy modern civilization that we enjoy today.

Hino City will continue to shout for abolishment of nuclear arms until the last piece is eliminated from the earth. The city is convinced that peace is the basic right in daily living. Thus, the city hereby loudly proclaims abolishment of nuclear arms and promises to be a Peaceful City.

男女共同参画都市宣言 平成10年9月28日議決

わたしたちのまち日野市は 一人ひとりが男女平等のもとに互いの個性と能力を尊重し 豊かに暮らせる社会をめざしてここに男女共同参画都市を宣言します

- 1 互いに地域で支え合う 安心して暮らせるまちをめざします
- 1 家事・育児・介護・仕事を分かち合う 共同参画のまちをめざします
- 1 互いの生き方を理解し合う 自立と共生のまちをめざします
- 1 互いの人権を認め合う やさしい平和なまちをめざします

Proclamation of a City that Promotes Participation of Both Men and Women

Our hometown, Hino City'

Is a place where each and every individual

Backed by the ideals of equals rights for men and women

Mutually respect personal attributes and potential

In hope to create an affluent and comfortable society

Here is our "Proclamation of a City that Promotes Participation of Both Men and Women"

- Seeking to create a safe and comfortable hometown in which the community mutually supports each other.
- Seeking to create a hometown that promotes joint participation to share housework, child rearing, nursing care and work.
- Seeking to create a hometown that is both independent and symbiotic, and a place where there is mutual respect for each others lifestyles.
- Seeking to create a hometown that is gentle and peaceful, and mutually respects human rights.